

## イネ縞葉枯病抵抗性を有する WCS 用イネ中生品種「つきあやか」

### の奨励品種採用

利用対象：WCS 用イネを栽培する経営体、指導機関

近年、三重県内ではイネ縞葉枯病の発生が散見され、今後も増加が懸念されます。県内では、WCS 用イネの栽培における中生品種として極短穂性の「たちあやか」が多く利用されていますが、同品種は縞葉枯病に抵抗性を有しておらず、今後 WCS 用イネの安定生産のためには、縞葉枯病抵抗性を有する品種の導入が必要です。そこで、縞葉枯病抵抗性を有する中生の WCS 用イネ品種を奨励品種に採用します。

#### 品種の特徴（「たちあやか」との比較）

- 出穂期及び黄熟期に差はありません。
- 穂部割合は同程度に小さく、多収です。
- 茎葉部の可消化養分総量は同等で、飼料利用効率に優れます。
- 可溶性炭水化物含量は同程度で、乾物中 10% 以上と高いことからサイレージ発酵に有用です。

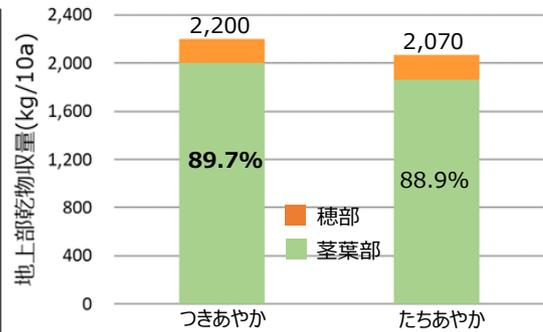


表1 出穂期および黄熟期の生育特性

品種	出穂期 (月/日)	黄熟期 (月/日)	黄熟期					穂数 (本/mi)	稲体水分 含有率(%)	倒伏程度 (0無-5甚)
			草丈 (cm)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	見かけの 穂長 (cm)	穂長			
つきあやか	8/3	8/27	142	109	12.2	8.4	323	62.5	0.0	
(比)たちあやか	8/3	8/27	140	107	13.1	9.0	295	62.7	0.0	

注1) 2022年と2023年の2ヶ年の平均値。表2、図1共通。

注2) 移植日：2022年は5/16、2023年は5/15、栽植密度：60株/坪、植付け本数：4本/株、総窒素施肥量：13.2kg/10a。表2、図1共通。

注3) 黄熟期は、出穂期からの積算日平均気温が680℃に到達し、かつ黄化粉の割合が50～75%になった日。

表2 黄熟期の飼料栄養成分（乾物中%）

品種	粗たん白質 (%)	炭水化物（繊維）			炭水化物（非繊維）			TDN* (%)
		NDF* (%)	ADF* (%)	リグニン (%)	NFC* (%)	でんぷん (%)	可溶性炭水 化物(%)	
つきあやか	5.1	43.9	29.8	3.1	40.6	24.0	15.4	60.5
(比)たちあやか	4.8	46.2	31.2	3.1	38.4	23.7	14.0	59.7

\* NDF：中性デタージェント繊維、ADF：酸性デタージェント繊維、NFC：非繊維性炭水化物、TDN：可消化養分総量

#### （利用上の留意点）

本試験結果は、三重県農業研究所内ほ場（三重県松阪市）で実施し、イネ縞葉枯病の発生がない条件で得られたものです。「つきあやか」は、農研機構（育成地）における保毒虫接種による幼苗検定法により、イネ縞葉枯病に抵抗性があることが確認されています。

お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課 山吉咲綺 電話 0598-42-6359 中央農業改良普及センター 山本泰也 電話 0598-42-6705
参考になる資料	<a href="http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm">http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm</a>